

# 読書活動支援者育成事業県中地区研修会

令和8年6月18日(木) 郡山市合同庁舎第一会議室 参加者41名

## ◎ 講 話 紙芝居で伝えたいこと～東日本大震災の記憶をたどる～

講師：浪江まち物語つたえ隊 岡 洋子 氏



- ・東日本大震災・原発事故により、当時住んでいた浪江町から福島市に避難し、その後2014年に「浪江まち物語つたえ隊」に加入し紙芝居を始めた。震災講話では、東日本大震災・原発事故による、自身の避難体験をもとに、紙芝居を通して命の大切さを伝えている。
- ・「浪江請戸小学校物語『奇跡の避難』」、「浪江町消防団物語『無念』」の2作の紙芝居を通して、当時の町民の苦悩を表現し、臨場感あふれる講話となった。多くの参加者が涙しながら、この体験を語り継ぐことの重要性を強く感じる事ができた。
- ・「本当にあったことを、心を込めて語り続けたい。」という岡氏の力強い言葉が参加者の心に深く残り、今後の読み聞かせボランティアや学校、図書館での活動に大いに活かせる有意義な講話であった。



### 《参加者の声》 \*読聞：読み聞かせボランティア

- ・災害予防のすばらしい資料として請戸のことを多くの方に知っていただくために周知していくとよい。(読聞)
- ・読み方がとても勉強になった。(教職員)
- ・素晴らしい紙芝居だった。想像以上のもので、臨場感・迫力・超絶だった。(行政)
- ・風化させないようにいろいろな場所で多くの人々に伝えてほしい。(行政)
- ・後世に残す、真実を伝えるための手段は数々あるが紙芝居の素晴らしさを知った。(読聞)
- ・岡氏の想い、作中の方の無念を絵と声と心で伝える強い責任、期待に心が震えた。(図書館サポート)



## ◎ 講義・演習 「絵本よみきかせセラピー®～絵本を通して自分の心と向き合しましょう～」

講師：絵本よみきかせセラピスト® 山田 昭彦 氏

- ・今回の講義・演習は、絵本を持ち寄って紹介し合ったり、読み聞かせの技能を高め合ったりすることを目的としたものではなく、参加者自身が、絵本を通して自分と向き合う、絵本セラピー®を体験する講習会であった。
- ・「ぼくは泣きました」、「しあわせのバケツ」の2冊の絵本の読み聞かせに対して、参加者は山田氏の問いかけについて考え、お互いが感じたことを4人グループで伝え合い、賞賛し合うことで、読み手が絵本を通して自分の心と向き合う素晴らしさを実感することができた。
- ・個別で自分の考えと向き合った後、グループでの意見交換や全体で共有して認め合う活動を取り入れ、山田氏はその内容に対して価値づけを行った。山田氏の綿密なコーディネートや声かけ、そして意図的に組み立てられた演習の構成が大変すばらしかった。
- ・参加者同士の心が満たされていく様子が肌で感じられ、会場は終始、温かい雰囲気にもまれ大盛況となった。山田氏からは、子どもの読書活動を支援する方々は「可能性の源」とであると力強い励ましをいただき、参加者からは感謝の言葉が相次いだ。また、絵本「しあわせのバケツ」の内容になぞらえ、「自分の心のバケツが満たされた。」と喜びを語る感想も数多く聞かれた。



《参加者の声》 ＊読聞：読み聞かせボランティア

- ・読み方がとても勉強になった。(教職員)
- ・読み聞かせの抑揚や間の取り方が素晴らしく、絵本の世界に引き込まれた。絵本の感想を他の方と共有することで、自分の中にこれまで見えてこなかったものが現れてきて、自分のことを少しわかったような気がした。本日の出会いに感謝したい。(行政)
- ・私たちが子どもたちにとって『可能性の源』であると言っていたらき今後の活動のそれこそ「源」になる。(図書館職員)
- ・講話が楽しく、言葉の大切さがわかってよかった。(読聞)
- ・幸せのバケツは見えない心を形にしてくれてわかりやすい話だった。自分もバケツがいっぱいになった。(その他)
- ・選書の方法、読み聞かせのプログラムの組み方、とても参考になった。(読聞)
- ・言葉の持つ力を今後も考えながら活動したい。(読聞)



◎ 研修会全体を通して

- ・心に訴えかける言葉の響き、響きから何を考えるかということを学んだ。(教職員)
- ・他の地域の方と交流できてとても楽しかった。また実践をおねがいしたい。(読聞)
- ・ただ単に読むのではなく、自分自身もその中の登場人物の立場になって言葉をつむぐことが大切だと思った。(読聞)
- ・今日は今までにない研修で感動した。(読聞)

